

健康ぷらざ

No.432

企画:日本医師会

尿検査で何がわかるの？

尿検査は、おしっこ(尿)から、体の様々な状態を知る検査です。

専用の試験紙の変化によって、結果がわかります。

検査でわかる情報のなかでも、特に尿たんぱくと尿潜血反応は大切です。

尿にたんぱくが混じるということは、

腎臓に障害があることを示しています。

原因はいろいろありますが、尿たんぱくが続く病気として

代表的なものは、慢性腎炎や糖尿病による腎障害です。

腎臓の機能が徐々に低下して、

透析を受けなければなくなる可能性があります。

尿潜血反応は、尿に血液が混じっている(血尿)かを調べる検査です。

代表的な原因として、慢性腎炎、尿路結石、がんなどがあげられます。

尿は腎臓で作られ、尿管、膀胱、尿道を通して体外に排出されます。

これらのどこから出血しても、尿潜血反応は陽性になります。

健康診断で指摘されたり、尿に血が混じっていたら、

かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医を紹介してもらいましょう。

